

## 皇居外苑の概要、案内

皇居外苑は、東京の中心部に1平方キロメートルほどに広がる公園です。3つの博物館も含まれており、その興味深い歴史と自然環境から人気があります。その敷地は、天皇の住居である皇居を囲っており、皇居前広場、12のお濠、北の丸公園からなっています。その敷地は元々、1457年に築城された江戸城の一部でした。お濠や、いくつかの門、橋、櫓、見事な石壁が残されています。その多くは国の特別史跡や重要文化財に指定されています。

築城されたのは、闘争と政治の大変動の時代です。現在の東京の南方に位置する旧首都である鎌倉を守るために建てられました。1603年から1867年まで封建的な政権で国を治めた徳川幕府によって拡張され、日本で建設された最大の牙城となりました。

数百年に渡り、江戸城は度重なる火災の被害を受けました。1873年の火災では、城の大部分を焼失しています。1874年から1945年までの間、北の丸公園は近衛師団の駐屯地でした。

## 散策プラン

皇居外苑散策にぴったりの出発点は、外苑の南端に位置する楠公レストハウスです。歴史背景に関する展示や、江戸時代に起源を持つ食事が食べられるレストランもあります。楠公レストハウスの前には、丁寧に手入れが施された約2000本のクロマツと、天皇への忠誠心で有名な名将、楠木正成(1294年-1336年)の銅像があります。

ここから桜田門へ向かい、お濠沿いに北へ進み、二重橋、皇居、巽櫓の横を通って行きます。櫓の向かいにある和田倉噴水公園は、天皇陛下(在位期間：2019年-)と上皇陛下(在位期間：1989年-2019年)のそれぞれの御成婚を記念した公園です。休息をとるには最適な場所で、公園内のレストランでは食事をすることも出来ます。そこから、大手門を通り東御苑に入るか、または大手濠に沿って歩いて皇居外苑の外を進んでいくこともできます。

東御苑は、皇居の内部で1年を通して一般公開されている唯一の場所です。高い壁、頑丈な門、警備によって守られており、江戸城内で最も護衛されていたと言われる場所でした。現在では、お濠、門、番所、天守閣の基礎が江戸城の遺構として残っており、天守閣は1657年に焼失した後は再建されることはありません。

んでした。一部の石には焼け跡が今でも残っており、その炎の強さを感じることができます。

大手濠と東御苑のどちらのルートも日本で数少ない跳ね橋の一つ、北桔橋門へと続いていきます。ここから北の丸公園へ向かうと、緑豊かな公園と江戸時代（1603年-1867年）に建てられた2つの門が見えてきます。田安門を抜けて、お濠沿いに反時計回りに進み千鳥ヶ淵を抜けると、散策ルートのスタート地点に戻ってきます。日没後は桜田門がライトアップされ、皇居外苑散策を印象的に締めくくります。また、周辺には駅が多くあるため、散策ルートの一部を省略することも出来ます。お濠沿いの5キロのコースは、ランナーに人気です。